

地ビールまつりin東京'95

■概要
開催期間：11月30日(木)～12月2日(土)
会場：東京国際見本市会場(青海) 日比谷特設会場
主催：地ビールまつりin東京'95実行委員会
企画運営：JTB地ビール支援室 ☎03-3504-3706
出展数：12社 28銘柄
出展メーカー：オホーツクビール、パブルフリー川口、赤坂地ビール、御殿場高原ビール、僕王、大阪國乃長ビール、白雪ビール、地ビール三田屋、独歩ビール、梅錦ビール、ゆふいんビール、St.Gallen
取材日：12月1日(金)



販売にも熱心な赤坂地ビール。多くのビールは、その場で飲むのみ。パネルで「お国のビール」をアピール



生ビール関連企業が個別相談に応じる

INTERVIEW



●(男) 28歳／大学生／横浜市在住

映画を見る予定でしたが時間が合わなかったので同じ「び」に載っていたこちらに来て見ました。2人ともビール好きで、以前から話題になっていた「地ビール」は一度飲んでみたいと思っていたんです。普通のビールと違って個性があっておもしろいですね。美味しいとか聞かれると……何とも言えませんそれが地ビールのよさではないですか。

(女) 23歳／大学生／横浜市在住

すごくビジネスマンが多くてびっくりしています。もっとビアホールで飲むような雰囲気かと思ってました。2人で買ったパンフレットを見て、もう1杯ずつ飲んでみます。今日はもう時間がないのですが、もっとゆっくり見たいし、美味しいビールがあればその地方に行って飲んでみたいですね。



●(夫) 30歳／会社員／大田区在住

大のビール党で「一本会」という、月1回ビールを飲む会を主宰しています。このイベントには新聞で見て早速駆け付けました。ビールを飲みに海外まで行ったこともあります。普段市販されているビールに慣れているだけに、地ビールには癖がありますね。でも、海外の地ビールはもっと味や作り方が凝っているので、日本もこれからに期待したいです。

(妻) 30歳／主婦

主人と毎晩晩酌してますし「一本会」で大勢の人とビールを飲むのも楽しみになっています。普段はサッポロとかモルツを飲んでいます。今飲んでいる「サンクトガレンビール」は美味しいですよ。次に何を飲むか考えて楽しみながら飲んでいます。5枚綴りのチケットを買ったので、2人で5杯は飲んで帰ります。



●(右) 30歳／会社員／茨城県在住

仕事が終わってからやってきました。大のビール好きなので、前から来る予定でいました。2人で6種類ぐらい飲んでみましたが、思ったより個性的な味がなくてがっかりしていました。ここに出演しているビールはサッポロやアサヒと技術提携している所が多いせいでしょうか。会場の雰囲気もビジネスライクだし、もっと作り手が「作りたい」ビールを出すイベントだとよかったです。1回目ですからこわごわ始めたって感じを受けています。

(左) 30歳／会社員／世田谷区在住

地ビール(越後ビール)を飲みに新潟に行ったこともありますし、世界中の地ビールを飲み比べたりもしています。自宅でビールを作り飲むことにハマっていて、よく会社の同僚や友達とパーティも開くんですよ。フルーツビールなども作ってレシピ交換もしています。地ビールもせっかくその土地の名物として個性を出せるようになったんですから、こんなに飲みやすいものはかなりいいと思うんです。ちょっと商業ベースを意識しているって感じがビールファンとしては残念ですね。



左から御殿場ビール、独歩ビール、梅錦ビール
上グラスやサーバー、つぎ方にまでそれ
こだわりがある
左スタンダードには色とりどりのビールが並ぶ



in
ま
地
東
京
つ
ビ
り
'95
地ビールまつりin東京'95



新しい味と市場を求めて集まったビール愛好家とビジネスマンたち

ル文化が発展する、すばらしいことじゃないですか」と大手メーカー側は技術の提供を惜しまない様子だ。そして、当日最も盛り上がりを見せていたのは、もちろん試飲スペースだ。1杯600円という料金設定には「高い」と不満の声もあったが、その土地でしか飲めないビールを飲み比べられるとなつて、そこはまるでビアホールのよう、飲んでいるのが7、8割がスース姿のビジネスマンで、取引メーターを開拓しようとやってきた流通関係者もいれば、隣の土地でしか飲めないビールを飲んで開催している見本市の帰りといつぐらイメージする雰囲気になりました。それから比べて情報誌を見てやつてきた一般来場者は少々しらけ気味。タイト

ぱ、かなりビジネス色が強かつたためにせつかく第1回目のお祭りなりにあまりに売り込みじみていて残念。もっと賑やかなイベントを期待していたんですけど」との声も聞かれた。趣向を凝らしたアピールやパフォーマンスなどを盛り込んでみてもおもしろかったのではないかだろうか。さて、「肝心の『味』」に関する評価は?かなり個性的な味が多いために、好みにマッチしたか否かで大きく感想が違い、一概に評価はできないうだ。6種試飲して「大手のビール以上に美味しいと思ったものはない」と言う人もいれば「その個性の強さ」が地ビールのよさで

しよう」とエールを送る人もいた。

夕方になるとO.S.や職場仲間がグループで「一度飲んでみよう」と詰

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

95年は「地ビール元年」。94年に、小規模なブルワリーでのビール生産が認可され、各地で醸造された地ビールが一気に世に登場しました。今や地ビールは全国で17銘柄になり、たちまち注目のマーケットとなっています。そんな1年の締め括りに相応しく、11月30日～12月2日に初の地ビールイベント「第1回地ビールまつりin東京」が東京国際見本市会場で開催された。企画運営は地ビールで旅行客をねらう(?)日本交通公社(JTB)。開催期中、約1万5000人の人出で賑わった。出展した地ビールメーカーは全国12社。会場中央の黄色いボードで仕切られた地ビールメーカーのブースに各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」は各々のアピールポスターが貼られ、ハッピを着た営業担当者がそのビルの特徴を説明し、パンフレットを配っていた。「ゆふいんビール」はボスター・パネルに湯布院の風景写真を貼って「町」そのものをアピールしていました。全国展開の地ビールを目指す「独歩ビール」はブース内

オホーツクビール(北海道北見市)
ドイツ・チェコ産の酵母とホップ小麦を除いて、大麦は100%地元の蕎麥を用いている本格地ビール。

パブルフリー川口(埼玉県川口市)
サッポロが川口の工場内のミニブルワリーで醸造しているビール。サッポロビアラザライオン川口店で飲める。

赤坂地ビール(東京都渋谷区)
おなじみの「ホッピ」作りの技術を活かして出来上がった「東京の地ビール」。醸造はしていないが、都内百貨店で入手可能。

御殿場高原ビール(静岡県御殿場市)
富士山からの伏流水を井戸から汲み上げて造った地ビール。醸造技術はドイツのクラウマイスターから伝授。

僕王(奈良県大和高田市)
奈良の河川湧水群の「天川の水」で造ったビール。クリスマス、お正月などにあわせた季節限定醸造も行っている。

大阪國乃長ビール(大阪府高槻市)
高槻の萬田の老舗蔵元「元寿酒造」が造ったビール。上質の日本酒を造り出してきた阿武隈山系の湧き水を使用。

白雪ビール(兵庫県伊丹市)
材料、醸造装置はすべてベルギー直輸入、水は伊丹の地下水というビール。清酒醸造400余年の歴史のある小西酒造製。

梅錦ビール(兵庫県西宮市)
レストランを経営する三田屋が醸造するオーストリアタイプのビール。社長の名をとった「梅錦ビール」とのこと。

独歩ビール(岡山県岡山市)
日本のビール技術指導を一切受けず「独立歩」で造ったので「独歩ビール」と名づけられた。醸造技術はすべてドイツにこだわった。

梅錦ビール(愛媛県川之江市)
オーストリア産の麦芽とドイツ産の酵母を使ったビール。ビールへの振動や温度管理にこだわるので飲めるのは近頃の飲食店のみ。

ゆふいんビール(大分県湯布院町)
湯布院の新たな魅力に、と醸造された「ゆふいんビール」は県知事の名前。ドイツ・バイエルンの麦芽を使ったビール。

サンクトガレンビール(サンフランシスコ市・特奈川県厚木市)
飲食店経営の岩本社長がサンフランシスコで醸造免許をとり、現地で造った地ビール。